

商学研究科・商学専攻の学位論文審査基準

【修士論文】

1. 審査体制

修士論文の審査では、近畿大学学位規程第 8 条(修士論文の審査)に従って、博士前期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科修士課程・博士前期課程、さらに他大学大学院の修士課程・博士前期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

なお、原則として修士論文を提出した者の指導教員は主査になることができないこととする。ただし、論文審査において支障がきたす場合は、審査プロセスの透明性、公平性及び公正性を担保して、指導教員が主査になることが認められる。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 7 条(修士論文の提出)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 10 条(修士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。

(1) 形式的要件

- ① 論文の分量は、原則として邦文で 1 頁を 40 文字×40 行で設定して 20 頁以上とし、注・図表がある場合は、本文の字数のみで 3 万字を超えていること(必須条件)。
- ② 論題は研究目的及び研究成果を考慮した妥当な内容であること。

(2) 先行研究との関連性

先行研究が検討・吟味され、研究成果の学術的意義が認められること。

(3) 研究目的・研究課題の合理性

問題意識が明確で、研究課題が適切であること。

(4) 研究資料の適切性

実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできていること。

(5) 論理の一貫性

分析の視点が明確で論理展開が一貫していること。

(6) 論述の体系性・信頼性

研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされていること。

(7) 研究の独創性

研究内容または研究成果が独創的であること。

(8) 研究倫理の遵守(必須条件)

論文内容に捏造、盗用、改竄などの研究不正がないこと。

4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表Aに基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(1)10%、(2)10%、(3)10%、(4)10%、(5)15%、(6)25%、(7)20%を、20～100 点で評価する。

(2) 当該修士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 9 条(最終試験)及び近畿大学学位規程第 12 条(合否の決定)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点 60 点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第 12 条(合否の決定)に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 13 条(学位の授与)に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、修士の学位を授与する。

【博士論文(課程修了)】

1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条(博士論文の審査)に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科の博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

なお、原則として博士論文を提出した者の指導教員は主査になることができないこととする。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 14 条(博士論文の提出)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条(博士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。

(1) 形式的要件(必須条件)

- ① 論文の分量は、注・図表を含め、原則として邦文で 6 万字を超えていること。
- ② 論文構成が明瞭であること。
- ③ 序論の部分で研究目的・研究課題が明確に述べられていること。
- ④ 結論の部分で研究目的・研究課題に対する研究成果や研究の限界及び今後の課題等が明確に述べられていること。

(2) 論文の水準(必須条件)

研究目的や研究課題に関連する領域の入門書、解説書等の水準ではなく、商学研究科の博士学位申請論文として相応の質・量、内容・水準を備えていること。

(3) 研究目的・研究課題の合理性

研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられていること。

(4) 論題の適切性(必須条件)

論題が研究目的及び研究成果を表現するのに適切であること。

(5) 先行研究との関連性

先行研究が検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が認められること。

(6) 研究資料の適切性

実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできていること。

(7) 論理の一貫性

分析の視点が明確で論理展開が一貫していること。

(8) 論述の体系性・信頼性

研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされていること。

(9) 研究の独創性

研究内容に独創性や新規性があること。

(10) 研究倫理の遵守(必須条件)

論文内容に捏造、盗用、改竄などの研究不正がないこと。

4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表 B に基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(3)10%、(5)10%、(6)10%、(7)20%、(8)25%、(9)25%)を、20～100 点で評価する。

(2) 当該博士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 16 条(最終試験)及び近畿大学学位規程第 19 条(合否の決定)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点 60 点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第 19 条(合否の決定)に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 20 条(学位の授与)に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

【博士論文(論文提出)】

1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条(博士論文の審査)に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、残りを副主査とする。ただし、必要があるときには、他の審査委員(本学他研究科の博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を有する者を含む)を副主査として加えることができる。

2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 22 条(学位申請手続)の要件を満たすものとする。

3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条(博士論文合格基準)を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。

(1) 形式的要件(必須条件)

- ① 論文の分量は、注・図表を含め、原則として邦文で 6 万字を超えていること。
- ② 論文構成が明瞭であること。
- ③ 序論の部分で研究目的・研究課題が明確に述べられていること。
- ④ 結論の部分で研究目的・研究課題に対する研究成果や研究の限界及び今後の課題等が明確に述べられていること。

(2) 論文の水準(必須条件)

研究目的や研究課題に関連する領域の入門書、解説書等の水準ではなく、商学研究科の博士学位申請論文として相応の質・量、内容・水準を備えていること。

(3) 研究目的・研究課題の合理性

研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられていること。

(4) 論題の適切性(必須条件)

論題が研究目的及び研究成果を表現するのに適切であること。

(5) 先行研究との関連性

先行研究が検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が認められること。

(6) 研究資料の適切性

実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできていること。

(7) 論理の一貫性

分析の視点が明確で論理展開が一貫していること。

(8) 論述の体系性・信頼性

研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされていること。

(9) 研究の独創性

研究内容に独創性や新規性があること。

(10) 研究倫理の遵守(必須条件)

論文内容に捏造、盗用、改竄などの研究不正がないこと。

4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表の学位論文評価基準表 C に基づいて各評価項目(各評価項目の比重割合:(3)10%、(5)10%、(6)10%、(7)20%、(8)25%、(9)25%を、0～100 点で評価する。

(2) 当該博士論文の審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 25 条(学力の確認)及び近畿大学学位規程第 27 条(博士論文の審査方法)に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数が合計点 60 点をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第 27 条(博士論文の審査方法)に則って、学位論文の審査と最終試験の可否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 21 条(論文提出による学位の授与)に従って、研究科委員会は、可否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の可否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

[学位論文評価基準表A]

評価項目\点数	100	80	60	40	20
形式的要件	論題は研究目的及び研究成果を十分に考慮した妥当な内容である。	論題は研究目的及び研究成果を考慮した妥当な内容である。	論題は研究目的及び研究成果を概ね考慮した内容である。	論題は研究目的及び研究成果を考慮した内容と多少しかけ離れている。	論題は研究目的及び研究成果を考慮した内容とかけ離れている。
先行研究との関連性	先行研究が十分に検討・吟味され、研究成果の学術的意義が十分に認められる。	先行研究が検討・吟味され、研究成果の学術的意義が認められる。	先行研究が概ね検討・吟味され、研究成果の学術的意義が概ね認められる。	先行研究が若干検討・吟味され、研究成果の学術的意義が若干認められる。	先行研究が十分に検討・吟味されておらず、研究成果の学術的意義はあまり認められない。
研究目的・研究課題の合理性	問題意識が明確で、研究課題が十分に適切である。	問題意識が明確で、研究課題が適切である。	問題意識が明確で、研究課題が概ね適切である。	問題意識、研究課題の合理性は若干認められる。	問題意識、研究課題の合理性があまり認められない。
研究資料の適切性	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできている。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析ができています。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が概ねできている。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が若干できていない。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析がほぼできていない。
論理の一貫性	分析の視点が明確で論理展開が十分に一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が概ね一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が若干一貫していない。	分析の視点があまり明確でなく、論理展開がほぼ一貫していない。
論述の体系性・信頼性	研究内容の記述や展開が十分に体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされている。	研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注がなされている。	研究内容の記述や展開が概ね体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が概ねなされている。	研究内容の記述や展開がやや体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注が若干なされていない。	研究内容の記述や展開があまり体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注がほぼなされていない。
研究の独創性	研究内容または研究成果が十分に独創的である。	研究内容または研究成果が独創的である。	研究内容または研究成果が概ね独創的である。	研究内容または研究成果が独創的と言えない部分がある。	研究内容または研究成果があまり独創的ではない。

[学位論文評価基準表B]

評価項目\点数	100	80	60	40	20
研究目的・研究課題の合理性	研究目的・研究課題の背景やその意義が十分明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が概ね明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられているとはいえない部分がある。	研究目的・研究課題の背景やその意義がほぼ述べられていない。
先行研究との関連性	先行研究が十分に検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が十分に認められる。	先行研究が検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が認められる。	先行研究が概ね検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が概ね認められる。	先行研究があまり検討・吟味されておらず、研究成果の学界への貢献が認められない部分がある。	先行研究が検討・吟味されておらず、研究成果の学界への貢献がほぼ認められない。
研究資料の適切性	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできている。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析ができています。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が概ねできています。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が若干できていない。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析がほぼできていない。
論理の一貫性	分析の視点が明確で論理展開が十分に一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が概ね一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が若干一貫していない。	分析の視点があまり明確でなく論理展開がほぼ一貫していない。
論述の体系性・信頼性	研究内容の記述や展開が十分に体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされている。	研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注がなされている。	研究内容の記述や展開が概ね体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が概ねなされている。	研究内容の記述や展開がやや体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注が若干なされていない。	研究内容の記述や展開があまり体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注がほぼなされていない。
研究の独創性	研究内容に独創性や新規性が十分にある。	研究内容に独創性や新規性がある。	研究内容に独創性や新規性が概ねある。	研究内容に独創性や新規性があるとは言えない部分がある。	研究内容に独創性や新規性があり感じられない。

[学位論文評価基準表 C]

評価項目\点数	100	75	50	25	0
研究目的・研究課題の合理性	研究目的・研究課題の背景やその意義が十分明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が概ね明確に述べられている。	研究目的・研究課題の背景やその意義が明確に述べられているとはいえない部分がある。	研究目的・研究課題の背景やその意義が述べられていない。
先行研究との関連性	先行研究が十分に検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が十分に認められる。	先行研究が検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が認められる。	先行研究が概ね検討・吟味され、研究成果の学界への貢献が概ね認められる。	先行研究があまり検討・吟味されておらず、研究成果の学界への貢献が認められない部分がある。	先行研究が検討・吟味されておらず、研究成果の学界への貢献が認められない。
研究資料の適切性	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が十分にできている。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析ができています。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が概ねできています。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析が若干できていない。	実態調査・文献渉猟など研究資料の収集・分析ができていない。
論理の一貫性	分析の視点が明確で論理展開が十分に一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が概ね一貫している。	分析の視点が明確で論理展開が若干一貫していない。	分析の視点があまり明確でなく論理展開が一貫していない。
論述の体系性・信頼性	研究内容の記述や展開が十分に体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が十分になされている。	研究内容の記述や展開が体系的かつ説得的であり、注釈や引用注がなされている。	研究内容の記述や展開が概ね体系的かつ説得的であり、注釈や引用注が概ねなされている。	研究内容の記述や展開がやや体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注が若干なされていない。	研究内容の記述や展開があまり体系的かつ説得的でなく、注釈や引用注がなされていない。
研究の独創性	研究内容に独創性や新規性が十分にある。	研究内容に独創性や新規性がある。	研究内容に独創性や新規性が概ねある。	研究内容に独創性や新規性があるとは言えない部分がある。	研究内容に独創性や新規性が感じられない。